

藤河内溪谷周辺地域のこけ植物・地衣類群落

藤河内地域では、尾根部を中心にブナ林要素をもつ自然林が広がり山腹までつづいていますが、二次林化した部分をかなり含んでいます。また、尾根部の一部に絶壁があり、岩上のコケ植物・地衣類群落が自然状態で生育しています。谷部の湿潤な林や、溪流辺に岩盤の露出部には特有の着生群落が見られます。



トゲナシカラクサゴケ-ヒモウメノキゴケ群落

トゲナシカラクサゴケ-ヒモウメノキゴケ群落

尾根の比較的日当たりのよい幹から枝にかけて見られます。トゲナシカラクサゴケは、県内のブナ林に良好な生育を保っています。ヒモウメノキゴケは各地のブナ林に普通に見かける種です。

地衣類の生育は特に良好です。

地上から高い位置の幹の調査では、調査場所に取り付くことが第一です。その場合、「木に登る」は、巨木や幹の間では大変です。「一本はしごや綱ばしごを使う」は、持ち歩かねばなりません。写真の「倒木をひもでくくる」は便利な方法です。

地衣類サルオガセの仲間

地衣類の中で、各地に生育し大気汚染に特に弱いとされるのがサルオガセの仲間です。幹や枝などにしばしば見られます。強風の後、登山道にも落ちています。



ハコネサルオガセ



アオハイゴケ群落



アラハシラガゴケ-ムチゴケ群落

谷部岩上のこけ植物群落

藤河内溪谷の側斜面は樹木に覆われ、林床はコケ植物を中心とした群落となっています。ここでは、日陰で湿気を好むヒノキゴケ、ムチゴケが株元から岩上にかけて広がり、急な岩面にはアラハシラガゴケも見られます。また、溪流内の岩上もコケ植物でおおわれ、水しぶきのかかるところではアオハイゴケ群落となっています。



アラハシラガゴケ



ヒメイワタケ群落



クロミヤマスナゴケ-ナメラカラクサゴケ群落



コバノホソバリミズゴケ-トゲシバリ群落

山頂部の岩角地の絶壁の地衣類群落

ヒメイワタケ群落, イワタケ群落, チズゴケ群落

ヒメイワタケ群落は, 夏木山尾根のブナ林内の岩上に, イワタケ群落は夏木山一帯の絶壁に見られます。また, 夏木山の尾根の一部に, 北方系の地衣類チズゴケも生育しています。



イワタケ



チズゴケ

クロミヤマスナゴケ-ナメラカラクサゴケ群落

小鋸山腹の急な岸壁でコケ植物と地衣類が共存し, 山頂部のイワタケ群落に対し, さらに低い標高に分布する群落と考えています。コケ植物はクロミヤマスナゴケ, タカネカモジゴケ, チヂミバコブゴケなど, 地衣類はナメラカラクサゴケ, ヤマゲジゲジゴケ, ゴンゲンゴケ, ヤマトキゴケなどです。



コバノホソバリミズゴケ



トゲシバリ

コバノホソバリミズゴケ-トゲシバリ群落

藤河内溪谷の上部, 観音滝の登山道脇で溪谷側面に, 岩が平たく浸食された急な斜面が広がっています。周囲は小径木の二次林で, 降雨後は水の侵出がありますが, 晴天続きでは乾燥する場所です。ここに, 湿地を代表するミズゴケ類が生育しており, 不思議に思われます。コバノホソバリミズゴケは, この仲間では特異な性質をもっているようです。乾燥地の岩場を生育地とする地衣類トゲシバリとは同じ環境内にありますが, それぞれの種はくっつき合い独立したコロニーをつくっています。